

けんか、すつきり

ある日、わたしは先生によばれた。

先生は、わたしに

「ひろこさん。あなたが日記に書いてきたこと、さとしさんにつたえてみたら。」

と言いました。わたしは、きのうの日記に「だまれー」とさとしさんに言われていやだったことをかいていたのです。わたしがまよっていると、先生は、

「言うか、言わないかはあなたが決めることだよ。でも、言わないとあなたの心のいやもやは、大人になるまでそのままだよ。」

と、言いました。いつもわらっている先生のかおは、しんけんでした。それで、わたしは思いきってさとしさんにつたえてみることにしました。

先生は、さとしさんをよびました。そして、さとしさんにこう言いました。

「さとしさん。ひろこさんがあなたにききたいことがあるんだって。あなたを信じて話してくれるみたいだから、あなたもしんけんにかけて、しんけんそれに答えてあげてね。」

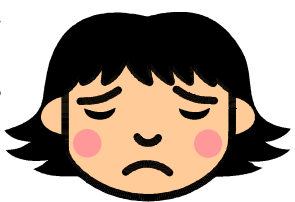
わたしは、さとしさんに思いきって聞いてみました。

「どうして、きのうわたしに『だまれー』と言ったの？」

すると、さとしさんはしばらく考えて、

「きのう、二時間目のさんすうの時間に、ぼくがまちがったとき、ひろこさん、大きなこえでわらったやろ。それが、いやだったんだ。」

わたしは、はっと、きのうのさんすうの時間のことを思い出しました。たしかに、わたしはわらったのです。でも、そんなことすっかりわすれていました。



それを聞いた先生は、

「そうだったの。よく言ってくれたね。ひろこさん、さとしさんが言ったこと、ほんとう？」
とわたしに聞きました。わたしは、

「はい。」と、うなずきました。

「じゃあ、こんどはひろこさんにきくよ。ひろこさんは、『だまれ』って言われてどんな
気もちだったの？」

「いやだった。」

「じゃあ、二人ともおたがいの気もちがわかったよね。何が、もんだいだだったのかな？」

『だまれ』って言ったこと。」

「さんすうの時間にわらったこと。」

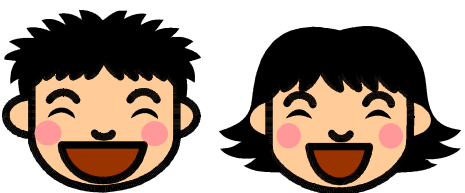
わたしとさとしさんは、同時に答えてしまって、思わずかおを見合わせてわらってしま
いました。先生もわらいながら、

「じゃあ、これからどうしていけばいいかは、かんたんだね。」

と、言いました。わたしとさとしさんは、

「はい。」

と、また同時に答えてしまって、またわらってしまいました。



それからしばらくして、わたしたちのクラスでは、休み時間にあちこちで話し合いをす
るようになりました。いろんなけんかはたくさんありますが、自分たちで話し合っ
つきり」できるようになったんです。今、わたしはクラスの友だちが大好きです。

※あなたは、友だちを信じて自分の気もちをつたえられていますか。